

DEBUT 首長

広島県竹原市長 吉田 基氏



よしだ・もとひ 1949年広島県竹原市生まれ。72年立正大経済学部卒、衆議院議員秘書などを経て90年竹原市議に初当選、6期目で退職し、2013年12月竹原市長に初当選。14年1月、第6代市長に就任。64歳。

小規模団地で企業呼び込み 公約の1000人雇用は可能

竹原市 広島県沿岸部のほぼ中央に位置する。瀬戸内海に面し、古くは交通の要衝として発展した。製塩や酒造で栄えたことでできた屋敷や由緒ある寺が建ち並ぶ古い町並みは「安芸の小京都」と呼ばれる。人口は約3万人。

——「1000人の雇用」を掲げて市長に当選した。

雇用の創出は長い間、竹原市が悩んできたことだ。市内にある広島県の「竹原工業流通団地」は20年ぐらいたって、やっと半分ぐらい埋まったところ。引き続きこの団地への企業誘致は目指すが、空港や高速道路には近いけど海からは遠い。もう少し海岸線に近いところが良いとか企業側のニーズもあると思う。市独自に小規模な工業団地を造成して企業を呼び込みたい。

大きな団地をつくらず、身の丈のあった立地を考えている。頭の中には候補地がある。自ら陣頭に立ち、トップセールスで企業を回り、5、6年の間に形として作り上げる。職員の力と県の協力に加え、若いころ東京へいた自分なりのネットワーク

もある。企業から（進出に）必要な条件を聞き、1つ1つ積み上げていけば1000人雇用は可能だと思う。

——「安芸の小京都」を売り物にした観光も力を入れるのか。

本市には瀬戸内海や周辺の山々など優れた自然資源に加え、国の重要伝統的建造物群である「町並み保存地区」に代表される歴史資源もある。「道の駅たけはら」やアニメの「たまゆら」など新たな観光資源を持ち、質の面ではどこの街にも劣らない。市議時代から見てきた、こうした宝をより一層啓蒙して、観光客増加に努力したい。

——高齢化で若者定住にも力を入れている。

本市は子育て支援を最優先の課題として重点的に取り組んできた。妊婦健診の無料化、小学校卒業までの医療費助成、延長保育の無料化など、子育て支援は県内でも高い水準にあると認識している。ただ5、6年前に市内から産婦人科がなくなって未だに見通しがたっていない。採算という問題もあるし、容易

ではないが、努力して何とか道筋をつけたいと思っている。

——市議からの市長就任。職員との関係はどうか。

市議として20年以上、市政を見てきた。市長になってみると、課題はもっと深刻だと感じた。職員には世代間の段差がある。一時期採用を絞ったため53歳以上の方がほとんどいない。人事バランス的には良くないが、逆に考えると世代交代が容易という利点もある。どういう改革にしても着実に一步一步やり遂げたいと思う。

市庁舎は40年ぐらいたっている。同じ場所で建て替えると、大きな費用がかかる。近くの合同庁舎は県の出張所が業務移管でなくなり、空きがある。市役所を移すのにはちょうど良いスペースで、移転費用も安価。こうしたところで経費をできるだけ抑え、お金は企業誘致とか次のために使いたい。

（聞き手は

広島支局長 高木 伸治）